

水道一元化について説明を受ける荒尾市議ら

＝荒尾市議会議場



## 荒尾、大牟田市水道と炭鉱専用水道

# 来年4月一元化へ

荒尾、大牟田の両市は11日、市水道と三池炭鉱専用水道(社水)を2014年4月から一元化することを明らかにした。同日あった両市の市議会全員協議会で説明した。市水道より前に整備された社水は現在も両市で約4600世帯に給水されている。

業所や社宅の給水で1909(明治42)年に開設。石炭採掘によって井戸枯れした鉱害補償世帯や一般家庭にも給水され、最盛期は約1万5千世帯に給水した。しかし、市水道との使用料の違いや消火栓の設置義務がないなどの問題があり、昭和30年代から一元化の協議が続いていた。

昨年4月の両市共同の浄水場完成を機に、両市と日本コークス工業(旧三井鉱山)、社水運営会社の4者で完全一元化を確認した。一元化後は2018年度までに約6億円かけて配水管などの切り替えを実施する。

一方で、社水給水世帯は3人家族の平均的な使用料が鉱害補償世帯で月額263円から3386円、一般家庭月から住民説明会を開く。

このため両市は2月、一般家庭月から住民説明会を開く。(東本由紀子)